

令和 3 年 6 月 7 日現在

機関番号：38001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02101

研究課題名(和文) 観光資源として活かすための八重山諸島群の伝統染織物についての研究

研究課題名(英文) Research on Traditional Dyeing and Weaving in Yaeyama Islands for Utilization as Tourism Resources

研究代表者

又吉 光邦 (Matayoshi, Mitsukuni)

沖縄国際大学・産業情報学部・教授

研究者番号：50269172

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：沖縄県八重山諸島群における観光産業の資源として活用をめざし、石垣島、竹富島、小浜島、与那国島に残る伝統的な染織物の調査をデジタル顕微鏡等を用いて行った。

石垣島では、石垣市立八重山博物館、南嶋民俗資料館、石垣市伝統工芸館、宮良殿内で調査をし、貴重な形付(紅型)や緋の衣装や古布裂、幻の布・繊維と呼ばれるトンビヤンの調査を行い、トンビヤンの簡易取得法などを提案した。竹富島では多くの古布裂のほかに、形付の踊り衣装の調査とその型起こしをした。小浜島の調査では、いくつかの形付衣装の調査を行い、形付衣装一つの型起こしをした。与那国島の神衣装に使用されている顔料のXRD測定とSEM-EDS元素分析をした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

八重山諸島群での古い染織物の調査により、新しい観光資源として有望な植物繊維のトンビヤンを見出し、かつ、その簡易取得法を現地の染織家の方々に提示することができました。それによって、苧麻を材料とした八重山上布以外の新しい伝統染織物を作り出すきっかけを与えられたと考えています。

また、小浜島、竹富島での形付(紅型)の踊り衣装の調査においては、いくつかの型の抽出に成功し、型紙に起こすことも行いました。今後、型を用いた形付衣装の衣装の制作ができるだけでなく、お土産のパッケージのデザインに利用できるようにしたので、今後の観光資源としての発展的取り組みに期待が持てると考えています。

研究成果の概要(英文)：Using digital microscopes and other tools, we researched the many traditional textiles that remain on Ishigaki Island, Taketomi Island, Kohama Island, and Yonaguni Island, with the aim of using them as resources for the tourism industry in the Yaeyama Islands of Okinawa Prefecture.

In Ishigaki Island, we researched at the Ishigaki City Yaeyama Museum, the Nanto Folk Museum, the Ishigaki City Traditional Arts Museum, and Miyara-donchi, where we researched valuable Katachiki (Bingata) and Kasuri clothes, old cloth pieces, and Tonbyan, and proposed a simple method of acquiring fiber of Tonbyan. On Taketomi Island, in addition to a large number of old cloth pieces, we researched Katachiki dance costumes and made the patterns of them. In Kohama Island, we researched several Katachiki costumes and made a mold of one Katachiki costume. For the sacred costumes of Yonaguni Island, XRD measurements and SEM-EDS elemental analysis of the pigments used were done.

研究分野：染織

キーワード：伝統染織物 緋 形付 紅型 桐板 トンビヤン 顔料 観光

## 1. 研究開始当初の背景

沖縄県八重山諸島群には、太平洋戦争の戦禍を逃れた多くの伝統的な染織物（古布・古裂）が残されています。それらは当地の伝統文化の証しであることはもちろんのこと、被服デザインなどの観光資源としても有望です。そこで、それら伝統的染織物のデザイン調査、さらにはデジタル顕微鏡写真や分光測色計などを用いた詳細な学術的な調査研究によって、新しい被服資源の発見に取り組み、観光資源として活かそうというのが、本研究の研究の学術的背景です。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、沖縄県八重山諸島群にある伝統的染織物（古布・古裂）の学術的な調査研究を行い、八重山諸島群における新たな地域の観光資源として活用を促すことをめざしています。そのため、調査研究によって得られたさまざまな学術的な知見を論文で公開するだけでなく、地域の伝統染織産業従事者へ講演などで資料提供することを第一の目的とし、持続可能な観光資源として当地の子供たちへ体験学習を通して還元することを第二の目的としています。また、被服の資源としてだけでなく、新しい観光資源としてのあり方を模索することも目的の一つで、例えばパッケージデザインなどの他の商品への応用を促すことも考えています。

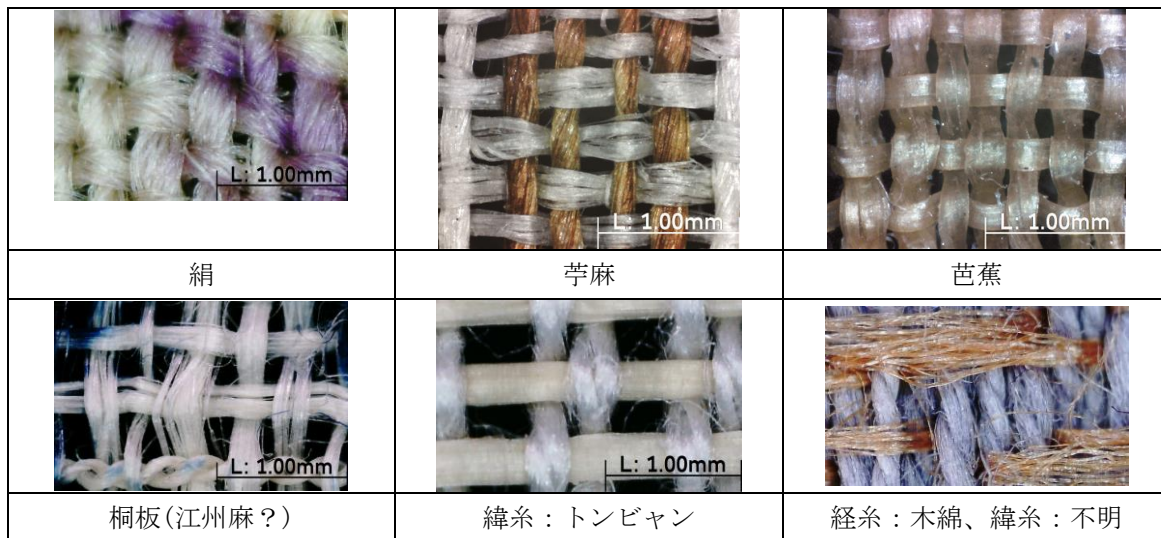
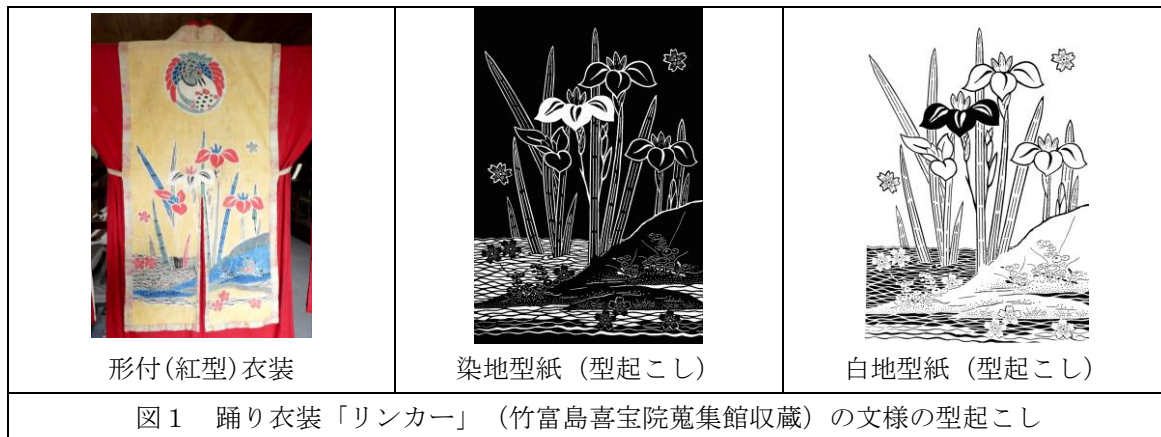
具体的には、調査によって新しい染織物の発見や定説を覆す結果が得られた場合、あるいは現代に合った染や織りの方法の提案を通して、ミンサーや八重山上布以外の古くて新しい「織」や「染め」の製品（衣類や小物など）の制作を可能にしたいと思います。また、それ自身、地域的话题性を有しており、それだけでも観光資源として地域貢献の助けになるものと考えられますし、ブランド化することで付加価値を付けることができると思われます。

最後に、八重山諸島群での本研究を足がかりに、宮古地域やその他の離島群での調査をすることも今後の大きな目的の一つです。

## 3. 研究の方法

研究の方法は、石垣市立八重山博物館、石垣市伝統工芸館をはじめ、私設の博物館である竹富島喜宝院蒐集館や南嶋民俗資料館、さらには地区や個人所有の古い衣装や、古布、あるいは古布裂を調査します。調査においては、通常のデジタルカメラによる写真撮影、ならびにデジタル顕微鏡でその糸一本一本まで写真撮影します。また可能であれば、分光測色計による色彩データの取得を行います。

調査によって得られる通常の写真データには、地域の伝統的な模様や文様が反映されているものです。言い換えれば、その地域に住む人々の思いや美意識などがデザインに現れており、観光に役立つ地域の独自性を持ったブランドと言えます。当地独自のデザインや文様を取得し、復元できれば観光資源として生かせます（図1参照）。一方、デジタル顕微鏡を用いた写真データについては、それを注意深く、繊維一本一本を確認し、分析することによって、糸の原料（絹、苧麻、芭蕉、桐板、トンビヤンなどの繊維）を特定し、染と織りの方法、染料や顔料などの推定ができます。その結果として、今まで知られていなかった、あるいは忘れ去られていた染織の技や新しい素材の発見が望めます。例えば、図2の「不明」を特定できれば新たな観光資源の発見となります。また、状態の良い古布であれば、分光測色計で色彩の調査もします。



#### 4. 研究成果

##### (1) 調査成果

① 2016年度は、竹富島喜宝院菟集館において分光測色計 CM-2600d ポータブル分光測色計を用いて、幻の繊維と呼ばれる桐板を用いた衣装1点、ならびに風呂敷1点を調査しました。またデジタル顕微鏡を用いて、形付(紅型)の踊り衣装1点、桐板衣装と風呂敷各1点、形付古布裂3点、細糸芭蕉古布裂5点を調査しました。また、織りと緋の調査では、デジタル顕微鏡を用いて、緋模様のある古布の繊維について200件、浮き織り技法の細帯について35件を調査し、それらの詳細なデジタル画像データを得ました。デザインについては、先述の緋文様に加えて、浮き織りの手拭い19件、尚順男爵の形付手拭い1件、風呂敷5件、形付端布4件と形付踊り衣装1件のデジタル画像データを得ました。

② 2017年度は、与那国島の伝統染織物の調査を与那国町教育委員会・与那国町伝統織物共同組合・与那国町徳美工房で行いました。与那国町教育委員会の協力で、昭和52年制作の形付(紅型)幕と最後の神女が身に着けていた神衣装の調査をしました。形付幕の調査では、サイズや文様を調べ、60件度ほどの通常のデジタル写真画像を取得しました。また、制作年代から城間栄順さん作と思われることを確認しました。神衣装は、各部のサイズの取得後、通常のデジタル画像データ約80件、詳細なデジタル顕微鏡写真15件を取得しました。調査の結果、神衣装は木綿地で、特殊な顔料(与那国島の特定の場所でしか取れない。この顔料については2020年度にXRD解析とSEM-EDS元素分析を行っています)を何らかの定着材を用いて付着させる方法であることを確認しました。また、与那国町伝統織物協同組合の協力により、見本帳か

ら8点を選びそのデジタル写真画像とデジタル顕微鏡写真を総計258件取得し、個人蔵の古い衣装数点の中から桐板布と思われる古衣装（和服を洋服に仕立て直してある）を調査し、総計57件のデジタル画像とデジタル顕微鏡写真画像を取得しました。個人の与那国町徳美工房では、古い緋の見本帳を見せていただき、かつ、先述の神衣装の顔料の提供を受けました。

③ 2018年度は、小浜島において個人所有の非常に古い踊り衣装や絹帯などの存在が明らかとなり、保全の観点から関係機関や個人との調整を経て、次年度以降に行うこととしました。

④ 2019年度は、石垣市立八重山博物館収蔵の古布裂等の調査をしました。まず、鎌倉芳太蒐集の古布裂についてデジタル写真797枚以上撮影、デジタル顕微鏡写真3810枚以上撮影しました。また、古衣装11件についてデジタル顕微鏡写真1027枚以上撮影、通常のデジタル写真879枚以上撮影し、衿幅などの各部の長さ・幅なども記録しました。また、非常に貴重な御絵図のデジタル写真458枚以上。また、石垣市立八重山博物館学芸員のご厚意により、八重山に自生しているある植物の植物繊維の提供もありました。さらに、小浜島の古衣装のデジタル写真総計285枚、ならびにデジタル顕微鏡写真総計134枚取得しました。

⑤ 2020年度は、石垣島にある旧家・宮良殿内に収蔵されている形付衣装1点（通常デジタル写真画像約240件、デジタル顕微鏡写真約264件）と中国伝来のもじり織りの幕1点（通常デジタル写真画像約39件、デジタル顕微鏡写真約41件）を取得しました。また、小浜島で奉納舞踊「胡蝶の舞」の踊り衣装2点の通常のデジタル写真約20件を取得し、サイズやデザインなどの調査を行いました。

## (2) 分析結果

① 2016年度の調査により得られたデータの分析とその後の文献調査で、喜宝院蒐集館の桐板布は江州麻と思われることを見出しました。また、竹富島で「リンカー」と呼ばれる2つの踊り衣装については精査したところ、2つはサイズやデザインに差があることが判明しました。またその衣装の形付文様が、鎌倉芳太郎の資料集や著書にあるのを発見し、それらを参照しながら型紙の型起こしを行いました(図1)。また、リンカーの襟は型染めではなく織りで、松竹梅鶴亀菊の吉祥文様が緯浮で織り出され、さらに知られていない、恐らく独自の香図が織りで表出されていることも分かりました。この香図の文様は、沖縄の形付文様にはないもので、非常に貴重な観光資源と成り得ます。また、経糸には退色しやすい紫の染料が使われていることも明らかになり、その染料としてノニが考えられることを当地の方から聞きました。

② 2017年度の調査より得られたデータを分析したところ、幻の繊維と言われるトンビャンの古布裂を見出しました。トンビャンの古布は、新しい観光資源として大いに期待できるもので、その後、トンビャンの繊維の取得法として簡易マニュアルを作成し、八重山の染織関係各位に郵送し、石垣市では桐板についての公演も行いました。そして、その際、月桃の繊維で織物ができないかとの問いがあったため、トンビャンの繊維の取り方を援用して月桃の繊維が取れることも示しました。今後、当地の方々の努力で月桃の繊維での衣類等の創作も望めます。

③ 2018年度は個人所有の貴重な古布や古衣装の存在が明らかとなったので、2019年度に別途、調査を行いました。その時に得た2つの形付衣装の型起こしを行っています。

④ 2019年度の調査では、見慣れない緋模様を発見したこと、また、鎌倉芳太郎の蒐集した古布裂に多くの貴重な染め物と織り物が含まれていることが明らかになりました。そのうちの一点にはトンビャンの繊維が含まれた古布裂があり、今後、精査を進めていきたいと考えています。また、小浜島で取得した形付の文様データから、復元用の型の原型を作り出しました。

今後、その原型から、文様の形起こしを行いたいと考えています。

⑤ 2020年度は、2017年に与那国島で取得した黄土と赤土をそれぞれSEM-EDS元素分析とXRD解析にかけました。その結果、黄土にも赤土にもマンガンやアルミニウム化合物が多く含まれることが分かりました。このことより、与那国島の植物染料の光に対する堅牢度の高さが、アルミニウムなどの多様な金属イオンの影響ではないかとの結論に至りました。また、大きな織機を用いない簡易ミンサー織りの手法を考え、現在、試織中です。

### (3) 業績

- ① 又吉光邦、“南嶋民俗資料館の古布裂（形付・芭蕉・白地）の調査研究、”産業情報論集第12巻1・2合併号、pp. 29-57、2016. 3.
- ② 又吉光邦、“南嶋民俗資料館の古布裂（紺地）の研究”、産業情報論集第13巻1・2合併号、pp. 1-46、2017. 3.
- ③ 又吉光邦、“古文書「ラミー（Ramie）及苧麻」と「簡易絹糸精練染色法」の翻刻”、産業情報論集第14巻1・2合併号、pp. 1-28、2018. 3.
- ④ 又吉光邦、“沖縄の龍舌蘭の繊維「トンビャン」”、産業情報論集第15巻1・2合併号、pp. 45-60、2019.
- ⑤ 又吉光邦、奥間美之里、“喜宝院蒐集館の踊り衣装（打掛）の復元のために”、産業情報論集第16巻第1・2合併号、pp. 43-54、2020. 3.
- ⑥ 又吉光邦、“三線の爪の金型の改良”、産業情報論集第16巻第1・2合併号、pp. 103-107、2020. 3.
- ⑦ 又吉光邦、“沖縄の伝統工芸品の実用的な融合 ～伝統染織物入りピック製作～”、産業情報論集第17巻第1号、pp. 1-5、2020. 9.
- ⑧ 又吉光邦・久田多恵・佐久本邦華、“Finding and Preserving Traditional Fabrics”、Impact、Science Impact、pp. 72-74、2021. 3. （査読。オープンアクセス）
- ⑨ 又吉光邦、“琉球王朝時代の与那国島と沖縄島の衣裳の変遷－台湾原住民の衣裳と装身具との類似性を含めて－”、奄美沖縄民間文芸学会、第18・19合併号、pp. 1-11、2021. （査読）。
- ⑩ 又吉光邦、『南嶋民俗資料館の古布裂』、南山舎、2018年4月発行。（単著、書籍）。
- ⑪ 佐久本邦華、『こどもたちと染めてみよう沖縄の自然』、新星出版、2018. 3. （単著、書籍）。
- ⑫ 又吉光邦、『南嶋民俗資料館と喜宝院蒐集館に保存されている古布裂』、石垣市 （講演依頼：八重山文化研究会）、2017. 5. 21.
- ⑬ 又吉光邦、『幻の繊維「トンビャン」』、石垣市 （講演依頼：八重山文化研究会）、2020. 2. 28.
- ⑭ 「幻の布 桐板を追って～琉球染織紀行～」、NHK、2020. 10. 31（土）午前10：05～10：55.
- ⑮ 「The lost textile of Ryukyu」、NHK WORLD JAPAN、2020. 11. 5（木）（当日4回放送。当日からオンデマンド1年間で、3年間（8回）の再放送予定。
- ⑯ 又吉光邦、“古文書の記述と古布裂から読み解く 八重山の染織文化”、染織情報α、439号、pp. 2-3、2018. 9.
- ⑰ 又吉光邦、“沖縄に伝わる「幻」の植物繊維の布 トンビャン(桐板)布の実像”、染織情報α、445号、pp. 4-5、2019. 3.
- ⑱ 又吉光邦、“南嶋民俗資料館の古布裂”、月刊やいま、No. 290、pp. 4-5、2018. 6.
- ⑲ 又吉光邦、“古布96点解析し出版 沖国大又吉教授「先人の技活用を」”、琉球新報、第39289号、p. 26、2018. 6.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 又吉光邦・奥間美之理	4. 巻 16
2. 論文標題 喜宝院蒐集館の踊り衣装（打掛）の復元のために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 産業情報論集	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 又吉光邦	4. 巻 15
2. 論文標題 沖縄の龍舌蘭の繊維「トンビヤン」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 沖縄国際大学産業情報論集	6. 最初と最後の頁 45-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 又吉光邦	4. 巻 14
2. 論文標題 古文書「ラミー（Ramie）及苧麻」と「簡易絹糸精錬染色法」の翻刻（Reprint of "Ramie and Choma" and "simple method for silk thread refinement and staining"）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 産業情報論集	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 又吉光邦	4. 巻 439
2. 論文標題 古文書の記述と古布裂から読み解く 八重山の染織文化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 染織情報	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 又吉光邦	4. 巻 445
2. 論文標題 沖縄に伝わる「幻」の植物繊維の布 トンビャン（桐板）布の実像	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 染織情報	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 又吉光邦	4. 巻 290
2. 論文標題 南嶋民俗資料館の古布裂	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊やいま	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 又吉光邦、佐久本邦華
2. 発表標題 竹富島と小浜島の形付衣装と与那国島の顔料 ～伝統染織文化を持続可能に支える観点から～
3. 学会等名 沖縄文化協会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 又吉光邦
2. 発表標題 幻の繊維「トンビャン」
3. 学会等名 八重山文化研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 又吉光邦
2. 発表標題 与那国島の衣装の変遷について
3. 学会等名 奄美沖縄民間文芸学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 又吉光邦
2. 発表標題 南嶋民俗資料館と喜宝院蒐集館に保存されている古布裂
3. 学会等名 八重山文化研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 又吉光邦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 南山舎	5. 総ページ数 240
3. 書名 南嶋民俗資料館の古布裂	

1. 著者名 佐久本邦華	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新星出版社	5. 総ページ数 57
3. 書名 こどもたちと染めてみよう沖縄の自然	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-



6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	久田 多恵  (Hisada Tae)  (40388187)	京都芸術大学・芸術学部・准教授    (34319)	
研究 分 担 者	佐久本 邦華  (Sakumoto Kunika)  (90772559)	沖縄キリスト教短期大学・保育科・准教授    (48001)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関